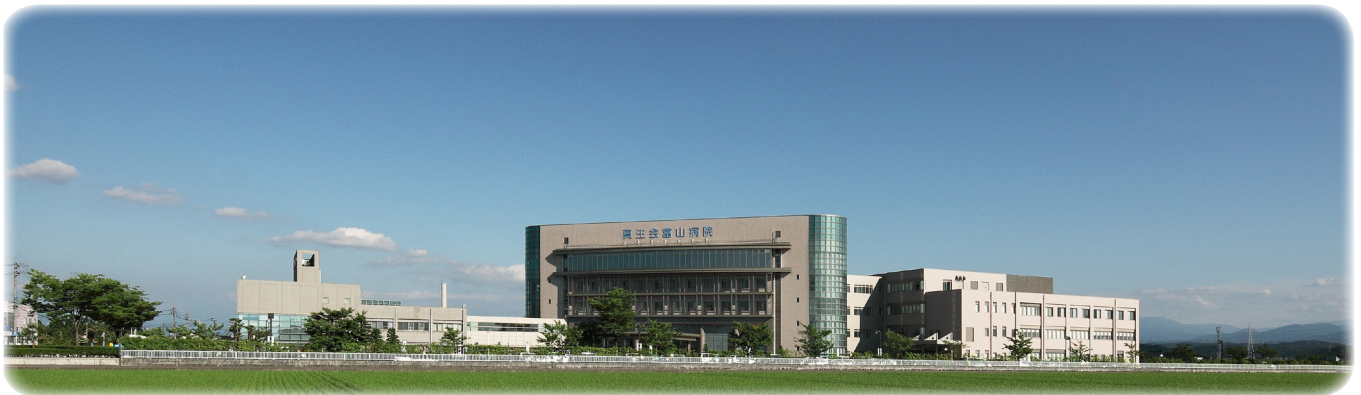


# 地域連携だより



## 口は命の入口 心の出口



真生会デンタルクリニック  
所長

いなだ まさかず  
稲田 雅一  
(歯科医師)

「口の健康は全身の健康につながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能の管理推進など歯科保健医療の充実に取り組む」と国は2017年に発表しました。

2018年は「口の機能管理の対象」が「入院患者や要介護者」から「国民へ」と広がったのです。そして「地域における医科歯科連携の構築など歯科保健医療の充実に取り組む」と具体的になりました。今、国の方針が県や市に浸透してきています。口は全身の健康に関係する。まず口を治そう。地域包括化構想の下、歯科の訪問診療も充実してきており、患者さんご自身からの往診依頼や地域包括支援センターからケアマネジャーを通じて歯科診療の依頼も確実に増えてきております。超高齢者社会の中で在宅での歯科診療をもっと普通に受けられる社会になってゆくでしょう。歯科医は削って詰める治療から全身から咀嚼、嚥下を正しく診断できることが必須になってきているのです。それにともない医科歯科連携も加速的に強くなっています。書類を通じて、そして顔の見える協力体制が築かれつつあります。

先日往診先の患者さんご家族から「家で母親の口

の状態を診てもらえるなんて・・・本当にありがたい・・・歯医者さんに往診してもらえるなんて」と本当に感謝されました。でもこれが普通なんだという社会にこれからはなりません。

高齢者だけでなく子どもたちの口腔機能も低下しています。固い食材が嫌われ、柔らかい食材が増え、噛まなくなり顎の形も細くなってきました。しっかり噛むことができない、上唇の筋力がついていないため上手に発音できない、お口ポカンの子どもたちが増えてきて口呼吸が増えています。結果アレルギーやインフルエンザの蔓延にもつながっています。そんな中うれしいことに地域のコミュニティセンターから高齢者対象の口腔ケアの講演依頼が増えました。ケアマネジャー、施設のスタッフ、健康ボランティアの方、PTAの皆様、様々な方からお声がかかるようになり皆様のお顔が見える連携が増え続けています。

全身の健康はお口から、そして生涯にわたって口から食べられ、最後まで元気！寝たきりさようならの人生実現に向けて一緒に頑張りましょう。



出張講座にて（南太閤山コミュニティセンター）

## 第2回ケア・カフェあい 開催

地域医療部 医療ソーシャルワーカー 後藤 悠ごとう はるか

3月12日(火) 午後に第2回「ケア・カフェあい」を当院5階の大講堂で開催しました。全国各地で広がりを見せているケア・カフェを、当院でも去年から開催しています。地域の医療・介護・福祉に関わる機関の看護師、介護支援専門員(ケアマネジャー)、福祉用具専門相談員、介護福祉士、薬剤師、施設管理者等の多職種28人もの方に集まっていただきました。院内の褥瘡グループや院内メンバーを併せ総勢48人での開催となりました。

前半は当院の形成外科の梅原康次医師を講師に迎え「褥瘡へのいざない」についての講演、引き続き褥瘡チームの理学療法士によるポジショニング体験を行いました。身体に圧を掛けないような方法を実際に参加者に体験してもらいました。また、管理栄養士より食事について講義があり、食事の大切さを感じられたと思います。参加者の皆さんに株式会社明治のメイバランスアイス(高齢者向けの栄養アイス)を試食してもらい、「市販のアイスとほとんど変わらない」と大変好評でした。



「褥瘡へのいざない」と題して講演する形成外科の梅原康次医師

後半では、褥瘡・食やポジショニングをテーマに、5~6人のグループに分かれて、スイーツやコーヒーなどを飲食しながら、自由に話し合いました。いろいろな考えをもった様々な職種の方と話し合うことで、参加者の皆さんにはその醍醐味を味わってもらえたのではないかと思います。



褥瘡やポジショニング、食についてグループごとに自由に話し合い



ポジショニング体験

普段はなかなか聞けない褥瘡の話聞く機会に、多くの方々に参加していただきました。参加者の皆さんの今後の支援に生かしてもらえれば幸いです。

今後は、地域の方々に運営メンバーを募り、医療・介護・福祉職の憩いの場になるような集まりを創っていきたいと思います。

## 【参加者の感想】（※アンケートより）

- ・各職種からの情報がリンクしてとても分かりやすかったです。
- ・イメージしやすい画像を用いた講座で分かりやすく、実際の体位交換が見られて勉強になりました。
- ・どのような工夫をしたら良いか各専門職のお話を伺い、これからのアドバイスの仕方や工夫など細かい取り入れ方を学ぶことが出来ました。
- ・ゆったり肩ひじを張らず話が出来、良かったです。とても良い雰囲気でした。
- ・自由な意見が出やすく有意義でした。
- ・梅原先生に直接質問や話ができとても参考になりました。



## 部署紹介：小児科

小児科医長 よしぎき たつお 吉崎 達郎

小児科は常勤医師1名、非常勤医師1名で診療を行っています。マンパワーの制約などあり、入院加療は行っていません。今シーズンはインフルエンザの大きな流行がありましたが、従来の感染症診療に加え、食物アレルギー、学校検診の精査、子どもの心の診療が小児科診療に占めるウエイトは、年々大きくなっています。食物アレルギーは、『食物アレルギー診療ガイドライン』『食物アレルギーの診療の手引き』を踏まえて、負荷試験を行っている医療機関と連携して診療を行うようにしています。

学校検診は、検尿、すこやか検診の精査に対応していますが、腎生検の判断や、家族性高LDL血症の治療は行っていません。また、心臓検診は、小学生はお受けしていませんが、中学生は内科で対応しています。

常勤医師が、昨年10月に日本小児科医会の「子どもの心相談医」の認定を受けました。子どもの心の診療は、とくに初診時はお一人の診察に時間がかかりますので、事前に保護者からお問い合わせをいただき、曜日・時間帯をご相談いただいた上での受診をお願いしています。不登校が明確な場合は、射水市教育センター教育相談室をお勧めしています。心療内科領域は、心療内科に直接、お問い合わせください。

これから、小児も在宅医療のニーズがますます高まっています。多職種が連携しやすい当院の強みを活かして、在宅医療の領域で地域貢献していくことができるよう研鑽に努めていきたいと思えます。



小児科スタッフ

## 第7回健康セミナー開催決定！

2年ぶりに健康セミナーの開催が決定しました。今回のテーマは、「人生100年時代の糖尿病を生きる～あなたと築く療養生活～」。糖尿病センター長である平谷和幸医師や、糖尿病網膜症の治療にあたる植田芳樹副アイセンター長の講演が行われます。講演の前後には当院の職員で結成された「劇団TIPS」が、糖尿病に向き合う人たちのドラマを上演します。劇中には、管理栄養士やリハビリスタッフなど、当院の専門職が多数参加します。

またセミナーと並行して、糖尿病について気軽に相談できる「糖尿病カフェ」を開催。お茶を飲みながら糖尿病療養指導士がお話を伺います。



健康セミナーに向けて練習に励む劇団TIPS

●日時：平成31年7月13日（土）14:00～16:30（開場13:30）

●場所：アイザック小杉文化ホール ラポール まどかホール

【平谷和幸医師よりメッセージ】

糖尿病患者数は増加しておりますが、まだまだ未受診患者が多くあります。糖尿病診療は、どんどん進歩しております。今回のセミナーではその一端をお話ししたいと思います。もっとも大事なことは治療継続です。真生会富山病院糖尿病センターでは、患者さんの話を良く聞いて、患者さんの立場に立った療養指導を心掛けております。医師及び、糖尿病療養指導士、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師、歯科衛生士、で構成されたチームとして、患者さんをサポートしております。劇団TIPSも啓蒙活動の一環として、糖尿病劇場を継続しておりますが、毎年バージョンアップをしております。楽しい時間が、糖尿病を考える機会になればと思っております。

## 平成30年度外国人患者受入れ拠点病院に

当院は昨年末、平成30年度の事業として厚生労働省より公募された「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」に基づき、地域における外国人患者受入れ拠点病院として認定されました。射水市は在住外国人の割合が高い市であり、医療機関には外国人の暮らしを医療の面から支えるという使命があります。円滑に治療を受けていただく前提として、日本人と外国人の文化の違いを知ることが大切です。例えば、射水市にはイスラム文化圏の方が多く住んでおられますが、これらの方には断食の習慣があることから、点滴や薬も拒否されるケースがあります。そのような場合、医師が点滴や薬が治療上必要であることを十分に説明し、理解を得られるようにしています。

現在、院内の多職種で構成された国際医療支援チームを中心に、外国人患者受入れ体制の整備を進めています。チームメンバーには英語と中国語の医療通訳1名ずつがおり、医療コーディネーター業務も兼任しています。国際医療支援チームは、地域の外国人患者受入れの相談窓口として貢献することを目指しております。現在は拠点病院事業の周知と、医療・福祉分野の方を対象とした外国人患者受入れに必要な勉強会を開催することも計画しています。今後ともどうぞよろしく願いたします。

